

令和 5 年度自己評価

富士保育園

自己評価(個人の気づき)

<p>法令やガイドライン についての知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインや指針をしっかりと解読する。現場に出たからこそ確認することで気づきに繋がり、これからの保育に活かせる知識にもなると感じた。 ・日々保育をする中で、子どもの成長を感じ「経験」として得ていることは多いが、学びに対する姿勢の低さを感じ、改めて指針の見直しや指導計画の立て方などを学ぶことが大切だと感じた。また研修に参加したり、専門書を見たりし、保育に関わる様々な知識を習得したり、理解を深める必要があると感じた。基本的な知識があれば、保育の幅や質に変化があると感じた。 ・幼児期の終わりまでに育てたい 10 の姿をしっかりと把握し入園時から卒園時までの計画を個人差に応じてしっかり立てていくことの大切さ、日々の保育の大切さを感じた。現状大まかな内容しかわかっていなく説明はできない。
<p>保育者・保育の質向上に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児、1 歳以上3歳未満、3歳以上においての保育のねらいのチェックシートを通して年齢に沿った保育のねらいが再確認、理解が出来た。 ・子どもにとって安心となる場の提供や保育の工夫においては、出来ている方であると感じたが日々の保育を振り返る時間は必要とする。 ・自分の苦手(音楽)が、子どもにどのような影響があるか、5感で感じたことができた。興味を広げていくことも大切だが、新しいものを提供することも大切と感じた。 ・職員の資質向上について、園全体での保育のねらいや内容など会議で発表し合うことで、月の学年のねらいが明確にわかるようになった。こうした発表や情報交換を行うことで保育の活動の取り組み方にも参考になり、若い先生たちにも良いと思う。また、他者の意見を取り入れることで保育が展開されていく。 ・自分の興味がある分野が中心だが、今の働き方(発達が気になる子対応)になって見えてきたものや“学びたい”と思える余裕があると思う。研修や自己研鑽で学んだことを保育の中で実践しながら、共有していきたい。 ・日々の慌ただしさの中、「子どもだから少しは受け流してもいいや」と思ってしまう子に振り回されて他の子に申し訳ないとも感じたが、少しずつ保育に手応えを感じたり、子どもの成長を感じると保育者として悩みも薄れたり、自信もでてきたので悩んだりする事も大事で保育者として成長できたと思った。 ・研修への参加が少なく自身の向上に努めることが出来なかった。 ・気になる子・障害児の対応では、関わり方が不安である <ul style="list-style-type: none"> *加配の先生に頼りすぎてしまっている *研修などにも進んで参加したり、保護者の関わりも大切にしていきたい
<p>子どもへの関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育及び保育の配慮では、日々の子どもに対する関わり、言葉かけに気を付けていきたいと思った。 特に、言葉かけは子どもが一番感じやすいので配慮していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとの温かなやりとり、スキンシップを心掛けているが、「早くして」「待ってて」など否定的な言葉を使ってしまう事実を受け止め、「なぜ、そうなってしまったのか」などその場の状況や自分の心境をその都度振り返ることが大切で次の日の保育に繋がると思う。言い回しや言葉選びを工夫し保育者としてふさわしい言葉を使えるようにする。 ・叱り方・伝え方について自身を見つめ直す。こちらの都合で叱ってしまう、怒ってしまうことが多いと反省。一人ひとりの安心の基地になれるように穏やかな関わりを大切にしたい。 ・常に子どもの様子に目を配り個別指導、週案などを考えていく必要があるということに改めて確認することができた。
<p>保育環境・保育内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって安心となる場の提供や保育の工夫においては、出来ている方であると感じたが日々の保育を振り返る時間は必要とする。 ・常に子どもの様子に目を配り個別指導、週案などを考えていく必要があるということに改めて確認することができた。 ・集団をまとめることに先走りそうになってしまいがち。まずは一人ひとりの思いや姿を理解し認め尊重していくことの大切さを改めて感じた。 ・子どもたちの主体性を伸ばしていく為には、環境が最も大切であり、保育者の力量が問われる。子どもの為に創意工夫し、考えていきたい。 ・1日の中で活動、給食、午睡と忙しく過ぎ保育をこなすのに一杯一杯になってしまい「早く」など急がせたりする事がある。未満児においても自分でやってみる姿を見守りきれず、つい手をとってやってしまう事もあり反省する。 ・保育者の配慮において「はい」とチェックした所は多かったが、実際に子どもたちに身に付いているかどうか分からず不安になることもある。 ・月案、週案等において、語彙の少なさや言い回しの単調さを感じるので先輩方や他の先生方の書類を参考にしながら語彙などを豊にしていける必要がある。又、未満児は週ごとにリーダーが変わるので連続性の難しさも課題である。 ・未満児保育での設問事項に「ゆったり」「やさしく」等の言葉が多く、一人ひとりに合った生活を送ることが安心につながることは理解しているが、常にそのような姿勢でいることは難しくそれを実現するには人手・スペースが必要である。だが現実的には難しい為保育者間で連携し一人ひとりに合った生活を送れるようにする。 ・たくさんのお話しかける・スキンシップを取ることが大切 ・子どもへの関わりは、出来るだけ個人を受け止められるようにしながらも集団を優先している面もあるが、活動内容・進め方を工夫しながら成長できるようにしたい <li style="padding-left: 20px;">*やっているつもりだがきちんと出来ているか、正解はわからない ・好きな遊びをさせてあげると遊びが片寄る ・散歩先や友だちでも外国人との関わりが増えて来ているので、グローバル社会に

	<p>合わせて様々な知識(文化や食べ物など)の提供をすることで、興味や関心を高めていく大切さを感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・描いたり、作ったり自由に出来る場の提供や、楽器にも自由に触れられるような機会を与えていきたい。表現活動になると、一斉に行ってしまうイメージがあるので、一斉活動の良さと自由表現の良さを生かした保育ができるが良い。、子どもの「やってみたい」を大切に保育を心掛けていきたい。 ・環境で「いいえ」と答えることが多かった。自然の移り変わりの中で、草花に触れたり、季節ならではの遊びを楽しむことは意識して行ったが、自分の苦手意識から生き物との関わりを避けてしまっていたように感じた。苦手な中でも、子どもたちが生き物に触れる経験が出来るよう、他の職員に頼ったり、協力しながら取り入れていきたい。 ・以上児保育では子どもと一緒に試行錯誤した挑戦する活動をしたい。飼育など保育室で一緒に目に見えた成長を子どもと共有したい。 ・地域との連携や異文化交流への働きかけが乏しかった。 ・一日の流れにはついてきたが、絵本や紙芝居などの選び方、読み方が難しい。 ・偏りやデコボコはあるものの、自分の得意の分野はどの領域に属するのか改めて考えてみると、何気なくやってきたことがとても大切なことであることに気付かされた。好きな“絵本”は言葉、表現を中心に人間関係や環境にも関わるので今以上の研鑽を心掛けていく。 <p>・全身を使った遊びが足りていない</p>
<p>危機管理・安全対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップや応急処置用品の使用法など、知っておかなければいけない基本的なことがきちんと分かっていなかった。いつなかが起きるか分からない為、危機感をもって生活していきたい。 ・災害の備えの項目で「いいえ」にチェックが多くついてしまっている、地域への避難場所への移動、保護者が園に連絡する場合の方法、保護者に分かるように避難場所の掲示など課題が多く見えた。 ・災害への備えについて保育者自身がハザードマップの正しい見方を知っておく必要がある。又、保護者へ災害時の連絡方法や避難経路を掲示するなど知らせていくよう課題が多いと感じた。
<p>配慮を要する児への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児と関わる機会が殆どなく無く関わり方がわからない部分があるので先輩方や研修に積極的に参加して理解を深めたい。 ・色々な障害についての知識を増やし、一人ひとりに合った保育が障害児に対しても実現出来るようにしたり、また保護者の悩みや相談にも自分なりに答えられるように勉強する。 ・特別支援は一人ひとりに適した対応が違い悩む事が多く、知識不足を感じる。 ・気になる子・障害児の対応では、関わり方が不安である <p>*加配の先生に頼りすぎてしまっている</p>

	<p>*研修などにも進んで参加したり、保護者の関わりも大切にしていきたい</p>
<p>保護者支援・対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な障害についての知識を増やし、一人ひとりに合った保育が障害児に対しても実現出来るようにしたり、また保護者の悩みや相談にも自分なりに答えられるように勉強する。 ・保護者支援については時に行き詰まり、悩む事もある、それぞれの保護者に合わせ寄り添う関わり方を意識していく必要がある。 ・気になる子・障害児の対応では、関わり方が不安である <ul style="list-style-type: none"> *加配の先生に頼りすぎてしまっている *研修などにも進んで参加したり、保護者の関わりも大切にしていきたい
<p>その他(職員間の連携・地域との連携など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の資質向上について、園全体での保育のねらいや内容など会議で発表し合うことで、月の学年のねらいが明確にわかるようになった。こうした発表や情報交換を行うことで保育の活動の取り組み方にも参考になり、若い先生たちにも良いと思う。また、他者の意見を取り入れることで保育が展開されていく。 ・子ども一人ひとりの発達、特に個人差に応じた関わりをしていくことの大切さを改めて感じ、一人ひとりに合った援助方法を職員間で話し合い対応していくようにしていく。 ・自分の興味がある分野が中心だが、今の働き方(発達が気になる子対応)になって見えてきたものや“学びたい”と思える余裕があると思う。研修や自己研鑽で学んだことを保育の中で実践しながら、共有していきたい。 ・一人ひとりそれぞれ自己評価、反省があり悩む事も多いが、それが成長につながると改めて感じた。職員間で話し合う機会は充実したものであった。 ・月案、週案等において、語彙の少なさや言い回しの単調さを感じるので先輩方や他の先生方の書類を参考にしながら語彙などを豊にしていく必要がある。又、未満児は週ごとにリーダーが変わるので連続性の難しさも課題である。 ・未満児保育での設問事項に「ゆったり」「やさしく」等の言葉が多く、一人ひとりに合った生活を送ることが安心につながることは理解しているが、常にそのような姿勢でいることは難しくそれを実現するには人手・スペースが必要である。だが現実的には難しい為保育者間で連携し一人ひとりに合った生活を送れるようにする。 ・たんぽぽ組は担当制保育も良いが休んだ時などデメリットもある。 ・健康支援について子どもの健康状態を把握し保育者間で連携するだけでなくかかりつけ医などとも連携することが大切だと気付いた。 ・気になる子・障害児の対応では、関わり方が不安である <ul style="list-style-type: none"> *加配の先生に頼りすぎてしまっている *研修などにも進んで参加したり、保護者の関わりも大切にしていきたい

グループでの話し合い

<p>法令やガイドラインについての知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の実践や関わりは、日々の保育において意識して行っているが、保育指針や要領などの意識をなんとなく理解しているつもりになっていた。いざ説明しろと言われても出来ない。保育者は保育に関するプロであり、その自覚を持って日々の学びの姿勢を高くしていかなければならない。多くの研修に参加する機会を増やしたり、保育指針や要領について知識を深め、改めて見直すべき。学んでいくことで、子どもとの関わりや保育の質の向上へと繋げていきたい。 ・法令・ガイドライン等、知らない事、分からない事があるが日々の保育に追われそのままになってしまっている意見があり、曖昧のままな部分もあるので再確認したりするべきだと思う。
<p>保育者・保育の質向上に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストをすることで、年齢に沿った保育の内容を見直し再確認することができた。 ・音楽、リズム、造形等自分が苦手だと提供の幅が少なくなってしまう。 ・色々な経験を重ねていくためにも、保育者も失敗してもよいのでは。そこから得られるものがあればよい。子どもと一緒に成長できる。 ・様々な研修や園内研修の大切さ、若手が学べる環境を作る。 ・一人ひとりを理解し、思いを受け止めていきたいが、集団をまとめることに意識が向いてしまうと気持ちに添ったことが出来ないこともある。自分の心に余裕を持ち、子どもと接していきたい。 ・子ども一人ひとりの「やってみたい」を叶えられる保育環境をつくっていききたい。その為には、保育者自身も自分の苦手なことや、得意なことを理解し、正直に自己表現することが大切。保育者も子どももそれぞれの個性を尊重しあっていきたい。 ・絵本の選び方が難しいと悩んでいる保育者がいた。このことに悩んでいる保育者が他にも沢山いそうだと思った。子どもにとって絵本の時間は楽しみの一つなので、内容や読み方(自分が楽しいと思いながら読む)を認識した上で、子どもたちに日々の保育の中で伝え、読んでいきたい。 ・特別支援は一人ひとり関わり方が違うので経験を増やしたり、研修に自主的に参加して知識を増やしていく。 ・保護者支援については、先輩方の素敵な言葉かけや言い回し、関わり方を見て学んで盗む。伝え方に不安がある時は先輩方に確認してから伝えるようにする。
<p>子どもへの関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対しての言葉の使い方を改めて見つめ直していきたい。咄嗟に出る言葉が否定的であったり、自分の都合に合わせてしまうことがある。自分の言動を振り返ったり(「ちょっと待っててね」「今〇〇しているから終わったら

	<p>一緒に遊ぼうね」「待っていてくれてありがとう」ときちんと説明し子どもの気持ちに寄り添う方法もある。)同僚に相談しながら、他にどんな言葉がけをすれば良かったかなど考えることで次に活かせたり、改善に繋がると思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが一番大人を見ている、子どもだからこそ、ちゃんと受け止め、聞いてあげなくてはいけない、時間や保育者の気持ちに余裕を持ち、子どもたちと過ごす1日を大切に、できる限り一人ひとりと丁寧に関わる工夫をしていく。 ・子どもは良くも悪くも大人の影響が大きいので、つねに見本となる行動を取らなくてはならないと再確認する事ができた。 ・叱り方、伝え方が難しいという意見があり、保育士自身の資質もあるが他の人の関わり方、伝え方を見て、会得していくものだと思うのでそのような機会が持てると良い。 ・障害児保育について、同じ障害を持っていても関わり方はそれぞれ違う。一番大切なことは、一人の人として認めてあげること。その子らしさを表現できる場、その子らしさを認める場を整える。その為には、保育者の関わりが影響してくる。研修等に参加して知識を深めることは大切であるが、まずは一人ひとりの個性を大切できる保育をしていきたい ・子どもへの接し方について 乳児への語りかけは重要。 <p>年齢が上がるにつれ、話し方がきつくなってしまったり、否定、決めつけが増えることがある。また、親しみから言葉使いがゆるんでしまうことがあるため、十分に気をつけていく。</p>
<p>保育環境・保育内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園は遊びが中心であること。たくさん体を動かして遊ぶことで子どもの運動能力、体力向上につながる。また、遊ぶ⇒お腹が空くというリズムが出来、食事に対する意識が高まり食事が美味しい、楽しいと思えるようになる。 ・日々の保育について(月齢の差、療育へのつなげ方) <p>月齢においては、活動の内容によってやり方を変え、発達に合った活動を取り入れていけばいいのでないか。子どもの姿にあった計画立案。</p> <p>発達の気になる子と関わりがないとわからないことばかり。療育や障害について保護者と話し合う場の必要性を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「10の姿」について 日々の保育の中で、10の姿は必ず関連している。10の項目内容を十分に理解した上で日案にも取り入れていく。 ・音楽、リズム、造形等自分が苦手だと提供の幅が少なくなってしまう。 ・色々な絵本や紙芝居を読むことが大切。新しいものを取り入れたり、良い本等職員間で共有するのもよい。 ・集団で生活している環境の中で子ども一人ひとりに目を向けた保育を実践していきたい。未満児クラスには保育者が5名配置されていて、子ども一人ひとりに注目して生活できるが、一方で以上児クラスでは、子どもの人数に対して保育者が1名(2名)なので、どうしても限界がある。子ども一人ひとりの安

	<p>心出来る環境が園の中にあるのか問われると分からない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの「やってみたい」を叶えられる保育環境をつくっていききたい。その為には、保育者自身も自分の苦手なことや、得意なことを理解し、正直に自己表現することが大切。保育者も子どももそれぞれの個性を尊重しあっていきたい。 ・行事などで色々な経験を子どもたちにさせているが、日頃の保育の中でも環境設定を工夫し、刺激となるような活動を行っていききたい。 ・絵本の選び方が難しいと悩んでいる保育者がいた。このことに悩んでいる保育者が他にも沢山いそうだと思った。子どもにとって絵本の時間は楽しみの一つなので、内容や読み方(自分が楽しいと思いながら読む)を認識した上で、子どもたちに日々の保育の中で伝え、読んでいきたい。 ・一人ひとりの思いや姿を理解することで、自主性を育ていけるので、まずは個々の理解を深めながら、一人ひとりの能力が高まるような環境構成が出来ると良い。 ・保育者もそれぞれ得意不得意があり理想の保育が異なることもあるが、自分の強みを活かして自分にしか出来ない保育をしていく。保育の仕方を園、学年で全て統一する必要はない、足並みを揃える所は職員同士で話し合いをして決めながらも、それぞれの保育を自信もって行っていく事で子どもたちもついてきてくれるのではないか。 ・ゆったりとした、穏やかな気持ちで計画性を持ち、考えて保育していきたいという思いに共感した。共に考え協力していける関係性づくりをしていかなければと思った。
<p>危機管理・安全対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に備え、ハザードマップの正しい見方を知ることにより活用出来るようにという意見があり、クラス内で話し合ったり、再確認していく。また保護者を交えて対応も大切だと気付いた。
<p>配慮を要する児への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育について(月齢の差、療育へのつなげ方) <p>月齢においては、活動の内容によってやり方を変え、発達に合った活動を取り入れていけばいいのではないか。子どもの姿にあった計画立案。</p> <p>発達の気になる子と関わりがないとわからないことばかり。療育や障害について保護者と話し合う場の必要性を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育について、同じ障害を持っていても関わり方はそれぞれ違う。一番大切なことは、一人の人として認めてあげること。その子らしさを表現できる場、その子らしさを認める場を整える。その為には、保育者の関わりが影響してくる。研修等に参加して知識を深めることは大切であるが、まずは一人ひとりの個性を大切できる保育をしていきたい ・特別支援は一人ひとり関わり方が違うので経験を増やしたり、研修に自主的に参加して知識を増やしていく。

<p>保護者支援・対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育について(月齢の差、療育へのつなげ方) 月齢においては、活動の内容によってやり方を変え、発達に合った活動を取り入れていけばいいのでないか。子どもの姿にあった計画立案。 発達の気になる子と関わりがないとわからないことばかり。療育や障害について保護者と話し合う場の必要性を感じる。 ・保護者支援については、先輩方の素敵な言葉かけや言い回し、関わり方を見て学んで盗む。伝え方に不安がある時は先輩方に確認してから伝えるようにする。
<p>悩みや課題に思うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを理解し、思いを受け止めていきたいが、集団をまとめることに意識が向いてしまうと気持ちに添ったことが出来ないこともある。自分の心に余裕を持ち、子どもと接していきたい。 ・集団で生活している環境の中で子ども一人ひとりに目を向けた保育を実践していきたい。未満児クラスには保育者が5名配置されていて、子ども一人ひとりに注目して生活できるが、一方で以上児クラスでは、子どもの人数に対して保育者が1名(2名)なので、どうしても限界がある。子ども一人ひとりの安心出来る環境が園の中にあるのか問われると分からない。 ・子どもに対しての言葉の使い方を改めて見つめ直していきたい。咄嗟に出る言葉が否定的であったり、自分の都合に合わせてしまうことがある。自分の言動を振り返ったり(「ちょっと待っててね」「今〇〇しているから終わったら一緒に遊ぼうね」「待っててくれてありがとう」ときちんと説明し子どもの気持ちに寄り添う方法もある。)同僚に相談しながら、他にどんな言葉かけをすれば良かったかなど考えることで次に活かせたり、改善に繋がると思った。 ・絵本の選び方が難しいと悩んでいる保育者がいた。このことに悩んでいる保育者が他にも沢山いそうだと思った。子どもにとって絵本の時間は楽しみの一つなので、内容や読み方(自分が楽しいと思いながら読む)を認識した上で、子どもたちに日々の保育の中で伝え、読んでいきたい。 ・悩みや迷い不安は保育と真剣に向き合っているからこそ生じる事、乗り越えた経験が自信に変わっていく。 ・叱り方、伝え方が難しいという意見があり、保育士自身の資質もあるが他の人の関わり方、伝え方を見て、会得していくものだと思うのでそのような機会が持てると良い。
<p>他の職員との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年の保育を知り、参考にしたり、取り入れたり、事務所の予定を記入しているホワイトボードを有効にすることで幅が広がる。 ・子ども一人ひとりの「やってみたい」を叶えられる保育環境をつくっていきたい。その為には、保育者自身も自分の苦手なことや、得意なことを理解し、正直に自己表現することが大切。保育者も子どももそれぞれの個性を尊重しあっていきたい。

・子どもに対しての言葉の使い方を改めて見つめ直していきたい。咄嗟に出る言葉が否定的であったり、自分の都合に合わせてしまうことがある。自分の言動を振り返ったり(「ちょっと待っててね」「今〇〇しているから終わったら一緒に遊ぼうね」「待っていてくれてありがとう」ときちんと説明し子どもの気持ちに寄り添う方法もある。)同僚に相談しながら、他にどんな言葉かけをすれば良かったかなど考えることで次に活かせたり、改善に繋がると思った。

・保育者もそれぞれ得意不得意があり理想の保育が異なることもあるが、自分の強みを活かして自分にしか出来ない保育をしていく。保育の仕方を園、学年で全て統一する必要はない、足並みを揃える所は職員同士で話し合いをして決めながらも、それぞれの保育を自信もって行っていく事で子どもたちもついてきてくれるのではないか。

・困り事など職員間、担任間で情報を共有し、一人でかかえ込まずに周りの先生に相談したり、アドバイスをもらったりする事も大切である。

・保護者支援については、先輩方の素敵な言葉かけや言い回し、関わり方を見て学んで盗む。伝え方に不安がある時は先輩方に確認してから伝えるようにする。

・書類において職員間で考えを共有しながら作成する事が大切である。

・ゆったりとした、穏やかな気持ちが乏しく計画性を持ち、考えて保育していきたいという思いに共感した。共に考え協力していける関係性づくりをしていかなければと思った。

課題の再確認

① 自分自身の課題

<p>法令やガイドラインについての知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導要録、指針、法令などによる専門知識が必要。 ・子育て支援や障害児に対しての専門知識が必要。
<p>保育者・保育の質向上に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの言葉に対して、否定したり、避難したりなど受け止めてあげられない場面がある。せかしたり、突き放したりすることもある。その時の状況に応じて言葉や関わり方を選択しているつもりはあるが、今一度自分の言動を客観視し、冷静に対応したい。 ・苦手意識を持たず、少しずつ自分が出来る範囲で提供出来たらと感じる。 ・園内研修だけでなく、知識や引き出しを増やすためにも様々な研修に参加したい。 ・分からないことは、直ぐに先輩方に相談する。 ・日々の保育において、実践や配慮等意識して行っていることもあるが、専門職として更なる理解を深めたいと感じた。自分の言葉で色々なことをしっかり説明出来るようにしたい。 ・自分の得意だと思っていること、自信に思っていることをもっと表現、アピールしていきたいと思った。つい自信がないこと、反省ばかりピックアップしていたが、もっと自信を持つことで子どもに対してよりよい関わりが出来るようになるかもしれないと感じた。 ・経験年数が増えてきて、固定観念が出来てしまったり、出来るつもりになっていることが多くあるように感じた。自分の思い込みや出来ているつもりに気付けるよう、他の保育者の意見を聞いたり、保育の姿を見たりしていきたい。 ・保育に「正解」はなく悩む事も多いが他職員と連携して理想の保育ができるように努力したい。 ・他の保育士と沢山話をして、色々な意見や考えを知り自分の保育を見つめたり、良いもの、素敵な考えや保育を取り入れていきたい。 ・日々の保育の中で不安になったり、自信のなさに自己嫌悪になったりするけど、同僚や先輩方にアドバイスをもらったり、頼りにしたりしながら、自分の保育を少しずつでも信じていきたいと感じた。 ・知らない事が多いと感じたので分からない事は本などで調べたり、先輩の先生に聞いたりして少しずつ学び覚えていかなければいけないと思った ・自身の言葉遣いや行動を反省しながら子どもたちの手本となる事を忘れずに保育をしたい ・自分の保育に自信が持てる位子どもたちと向き合い、とにかく自分の得意分野(体を動かす活動、明るさ、こどもと向き合って沢山遊んであげたいという気持ち、など)を伸ばしていく ・特別支援、障害児保育の分野の知識を自主的に学ぶ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・忙しさを理由に子どもの気持ちや言葉を受け止めてきてない事があったけれど、よりしっかりと受け止めていきたいと感じた。 ・急な事が起った時の言葉がけや臨機応変に対応する難しさが課題なのですぐに切り替えが出来るように来年度からしていきたい。 ・保育の引き出しが少ないと悩んでいたがグループ話し合いの際に自分が思っていたより引き出しがあることに気づき自信を持ってやりたい保育が出来るよう他の保育者に相談したり連携していきたい。自分自身に持てるようリトミックの資格を取ることを目標にする。 ・研修等に積極的に参加する。 ・自己評価や話し合いで気づいたことを今後の保育に活かしていきたい。 ・2年目は学を活かしながら自信を持って保育していきたい ・勉強・努力不足なので、勉強していきたい ・子供が成長していくうえで重要な時期に携わる責任ある職業 ・保育の振り返りをする事で、子どもたちにより良い保育を提供し、良い経験をさせて・障害児や特別支援が必要な児など支援方法や他機関と繋がり療育できる知識をつけたい ・壁にぶつかることもあるが、また新たに知識や情報を習得し自分自身の保育にする
<p>こどもへの関わり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに対して発した言葉が否定的になってしまうことがある。後々後悔してなぜ言ってしまったのか考えたり、自分の心の余裕のなさに考えさせられる。感情のままに言葉を発してしまうのではなく、一度落ち着いて子どもに伝えたいことを改める時間をつくるようにしたい。言い回しや言葉の選び方を先輩保育者から学び取り入れていきたい。 ・プラスの言葉がけ、穏やかな関わりを意識した保育を心掛ける。
<p>保育環境・保育内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合った発達支援ができるよう、日々の保育を振り返ったり、支援の仕方にも工夫を行ったりしていく。 ・子どもが遊びを中心として活動できるよう取り組み方を見直したり、意欲的に参加したいと思える環境作りを心掛けていく。 ・週案など立てる時は、月齢の差に対して、コーナー遊びに差をつけて用意していく。 ・子ども一人ひとりの“やってみたい”を叶えられる保育環境を意識し、保育者も自分自身の得意、苦手を理解しながら色々なことに一緒に挑戦していきたい。 ・子どもの様子をより見ながら、子どもの興味関心を引き出していきたい。 ・生きものに触れる、育てることに挑戦する。 ・一人ひとりに向き合い気持ちを汲み保育するよう心掛けているが集団や時間で行動を制限してしまうことも多く課題に感じる。 ・一緒に遊びを楽しむ、試行錯誤する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな経験をさせる計画を立て、安心して過ごせる環境づくりをしたい ・保育の振り返りをする事で、子どもたちにより良い保育を提供し、良い経験をさせてあげられると感じた
危機管理・安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・災害への対応を落ち着いて避難出来るように日頃から災害や地震などが起きた時にどう行動するべきかを考える必要がある。
配慮を要する児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援、障害児保育の分野の知識を自主的に学ぶ。 ・障害児や特別支援が必要な児など支援方法や他機関と繋がり療育できる知識をつけたい
他職員との連携・協力	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことは、直ぐに先輩方に相談する。 ・経験年数が増えてきて、固定観念ができてしまったり、できるつもりになっていることが多くあるように感じた。自分の思い込みやできているつもりで気付けるよう、他の保育者の意見を聞いたり、保育の姿を見たりしていきたい。 ・子どもたちに対して発した言葉が否定的になってしまうことがある。後々後悔してなぜ言ってしまったのか考えたり、自分の心の余裕のなさに考えさせられる。感情のままに言葉を発してしまうのではなく、一度落ち着いて子どもに伝えたいことを改める時間をつくるようにしたい。言い回しや言葉の選び方を先輩保育者から学び取り入れていきたい。 ・保育に「正解」はなく悩む事も多いが他職員と連携して理想の保育ができるように努力したい。 ・他の保育士と沢山話をして、色々な意見や考えを知り自分の保育を見つめたり、良いもの、素敵な考えや保育を取り入れていきたい。 ・日々の保育の中で不安になったり、自信のなさに自己嫌悪になったりするけど、同僚や先輩方にアドバイスをもらったり、頼りにしたりしながら、自分の保育を少しずつでも信じていきたいと感じた。
マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・若手職員の姿勢や努力に頼もしさ、心強さを感じるが不安や悩みを抱えていることが改めて伝わってきた。そんな職員の力になりたい気持ちはあるが「マネジメント」の意識をもう少ししっかり持っていきたい。 ・新人保育者はこれからの経験が大事で、色々アドバイスしてあげることが大切。 ・アドバイスを求められた時は一緒に考えていく姿勢で行い、その人自身が乗り越えたという実感が持てるようにしていきたい。前向きな職員が多いので具体的にいい所、凄い所、頑張りを伝え、さらに意欲的な保育につながるようアドバイスをしていきたい。

② 園全体の課題

<p>保育者の資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の悩みや考えを先輩、後輩に話し、共有していくことで保育についての新しいアイデアを取り入れ、より良い保育が展開できるようにしたり、同じ目標を持ってできるようにしていく。 ・保育や保護者支援の方法をもっと若手の先生が知る機会を増やす。 ・園内研修を充実させ、色々な分野について皆で理解を深める。 ・中堅以上は自信が慢心にならないように気をつけたい。ここで満足するのではなく、学びを深めてプロとしての意識を深めていく必要がある。 ・法令やガイドライン等を知らない曖昧なままにいる職員が多い。
<p>保育環境・保育内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢での交流の場をもっと増やしていく ・生活リズムをもう一度見直す。身体を動かす⇒食事をする⇒午睡。その上で保育を楽しむ ・地域や文化について触れる機会を増やす。 ・健康支援について、沢山遊んで楽しく食べることの大切さを改めて見直す。 ・防災教育について、子ども自身が防災について考える時間も必要である。 ・絵本不足→子どもが魅力的に感じる本が少ないもう少し充実させてあげたい。(特に年少の本棚は古めの本が多い) ・園外保育や地域・外国の方々と交流する機会が少ない。 ・生きものや飼育する機会を設け、命の大切さを知らせていきたい。 ・いろいろな経験をさせる環境づくりや玩具を用意する
<p>危機管理・安全対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害への備え 避難経路や連絡方法、避難場所の再確認、保護者への周知 ・防災教育について、子ども自身が防災について考える時間も必要である。 ・今年度危機管理委員会で、保育者に向けて避難訓練の見直しを行っているが、保護者に情報提供も行っていくべき。 ・災害時の避難場所は保護者の目につくところに掲示する
<p>保護者支援・対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育や保護者支援の方法をもっと若手の先生が知る機会を増やす。 ・保護者支援について、他の職員の対応の仕方を見て学んでいく。 ・今年度危機管理委員会で、保育者に向けて避難訓練の見直しを行っているが、保護者に情報提供も行っていくべき。
<p>他職員との連携・協力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の悩みや考えを先輩、後輩に話し、共有していくことで保育についての新しいアイデアを取り入れ、より良い保育が展開できるようにしたり、同じ目標を持ってできるようにしていく。 ・クラスや未満児、以上児の枠を強く感じることもある。 ・他学年の保育の様子や他の先生の保育を知る機会が少ない。 ・学年ごと行事への参加の違いなどにより仕事量に差が出てしまうので、より

	<p>協力できたらいいと思う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間のコミュニケーションの場が少ない ・職員間で保育の話をする場があまりなかったので、話をする場がもう少し増えてもいいと思った。 ・普段感じていること疑問や考えを交換出来る場や時間の確保が出来ると良い。 ・他の保育者の保育を見たい、知りたいと感じている職員が多い。 ・職員間のコミュニケーション不足。 ・未満児担任は複数の保育者を参考に出来るが、以上児担任ではわからないことなど相談したが難しい時もある ・クラスの保育士間で話す場は設けているがなかなか時間もないので、ゆっくり話をして親睦を深めたい
<p>マネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育や保護者支援の方法をもっと若手の先生が知る機会を増やす。 ・保育士の不足人手不足→もう少し余裕を持って一人ひとりの子どもに寄り添った保育ができる。 ・子どもとの関わりに余裕が持てるのは保育者が十分にいて、時間にも余裕があると、一人ひとりに満足のいく関わりがもてるのではないかと思った。 ・未満児担任は複数の保育者を参考に出来るが、以上児担任ではわからないことなど相談したが難しい時もある ・クラスの保育士間で話す場は設けているがなかなか時間もないので、ゆっくり話をして親睦を深めたい

提案

<p>保育者の資質向上</p>	<p>・法令やガイドラインをみんなで読み学ぶ機会を設ける</p>
<p>保育環境・保育内容</p>	<p>・一人ひとりのやりたい保育について受け入れていく ・絵本、紙芝居が古く、また年齢にあったものが足りない 図書委員会で購入希望、図書の選別。 ・絵本は BOOKOFF の中古の本もある。職員間で選書・購入するのもいい。 職員が交代で図書館から借りたり、古本購入もしてみてもいい。 ・保護者アンケートの結果は早めに保育者に周知して改善に繋がると良い。</p>
<p>危機管理・安全対策</p>	<p>・災害時の避難場所を保護者が把握できるようにあらかじめ取り決めて周知する。(掲示やコネクトなどを使い) ・危機管理委員会で防災訓練の見直しを検討した。「訓練」「備え」と幅広い見直しが必要となっているので来年度は防災に関する委員会を一つ増やしてはどうか。 ・災害への備えで避難所への避難なども想定し行っていった方がよいのではないか。</p>
<p>他職員との連携・協力</p>	<p>・若い保育者たちへのアドバイスや支援。例えば定期的に悩みや不安があることを発表(紙に書く)する機会を作りみんなでアドバイスしたり、意見を出し合う場を設ける。 ・どんなことでも相談しやすい環境 ・職員間の連携をスムーズにする。相談しやすい環境を作る為にも今回のような話し合い(グループ研修)の機会を大切にしていけると良いと思った。 ・食べにケーション、飲みにケーションも時には良いと思う。雑談は保育者間の仲間意識も高まる。 ・いろんな保育士と話す機会、親睦を深める機会を作りたい。 ・保育者が学年やクラスを行き来し、関わる機会を設けることで(交流保育・担任後退等)他のクラスの進め方や他の保育者のかかわり方を見て保育の引き出しを増やす。 ・職員会議後を利用し皆で研修する機会を定期的に設けることで職員の意識も高まるのではないか。 ・ふれあい保育を行ったり、職員間の懇親を深めることでお互いの良さや保育観を知っていく。 ・いろいろな学年の子どもや普段関わりの少ない先生とも一緒に保育できる取組があると良い。 ・以上児・未満児に関わらず担当したことが無い学年に入る日がたまにあるとその学年を受け持つときにイメージがあしやすい。</p>
<p>その他</p>	<p>・保育者人数がギリギリで一人ひとりの気持ちに寄り添った保育が難しい。</p>

I R5 自己評価・保護者アンケートから

(1) 保育の質向上・保育の環境及び内容

- ① 保育者の言葉かけ(口調・言葉選び) ※第三者の客観で不適切保育に直結してしまいます
“誰が聞いてもそうとられない言動を”
- ② 評価・反省を事実の羅列「〇〇して楽しかった」にとどまらず子どもの姿・保育者の配慮事項・
環境構成が必ずあるはずなのでそこまで広げる。
- ③ 絵本・紙芝居等の更新 → 図書委員会
- ④ 苦手な分野(音楽・動物・生き物など)に対する姿勢(チャレンジと連携)
- ⑤ 園児指導要領や 10 の姿などの法令ガイドラインに関する研修

(2) 災害時対応

- ① 訓練の方法及び内容のチェック継続・災害時の対策
- ② 防犯安全体制への備え

(3) 職員間の連携・保護者・地域との連携

- ① お悩み目安箱の活用
- ② 職員の交流(担任交換・公開保育)
- ③ 評価・反省・計画への意見の交換
- ④ 仕事の報連相をしっかりと
- ⑤ 保護者への伝達
- ⑥ 保護者相互のコミュニケーションの場の提供(参観を活用)